

株式会社百笑市場 会社案内



株式会社百笑市場
事業統括：長谷川有朋
2020年10月

会社概要

会社名：株式会社百笑市場

代表取締役社長：染野 実

創立：平成23年10月19日

資本金：1570万円

役員：9名（代表含む）

従業員：2名

事業内容：茨城産米の輸出

取扱商品：米

本社所在地：茨城県下妻市半谷514-2

電話番号：0296-39-0913

年商：1.2億円

役員（全員認定農業者）

飯ヶ谷 俊弘

石島 和美

稲川 隆

小林 勝憲

小林 稔

坂入 隆

染野 実

谷中 英男

櫻井 宜育

起業理由

現在、日本国内の年間米需要は約710万トンであるが、人口減少が加速（2050年には1億人を割る）、喫食率低下等の理由から、毎年約10万トン以上もの需要減が見込まれている。米消費の衰退により、作っても売れない時代がすでに来ている。

また新型コロナウイルスの影響も多大にあり、直近の国内年間需要は22万トン減少、国内主食用米の在庫量は200万トンを超え、新米の価格低下につながっている。

一方、海外では新興国の人口増加と所得の向上、また消費者の嗜好の変化、多様性が顕著であり、日本産米の需要が増え続けている。東南アジア、米国、ヨーロッパ、オセアニアなどで日本産米の市場が広がっている。

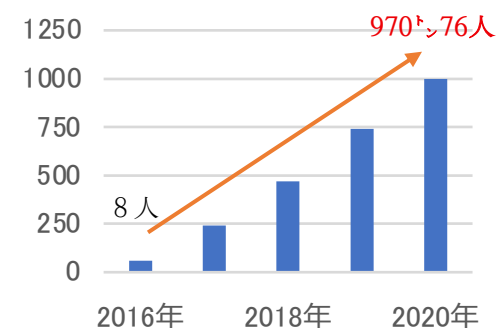
日本政府が米の需給安定の為、輸出米を奨励し始めて 3年目に入る今年、数多くの日本企業が米の輸出販売に力を入れており、国内の需給安定、生産農家の所得向上、ひいては我が国が世界の食料供給に寄与出来る事を目標にする。

企業理念

日本の食文化の象徴である米を輸出し、本物の和食の味を世界中の人々に広めると共に、日本の稲作農業の所得向上とさらなる発展に寄与する。

輸出の取組の経緯、総輸出量2500トン達成間近

- ・ 2016年（平成28年産） → 8名の百笑市場創設生産者が「ゆめひたち」60トンを米国へ試験輸出開始。
サンフランシスコ周辺。
- ・ 2017年（平成29年産） → 35名の生産者が参加、240トンを輸出。
小売用「茨米」ブランドを展開開始。
- ・ 2018年（平成30年産） → 60名の生産者が参加、470トンを輸出。
販売地域を全米、シンガポール、香港に拡大。
- ・ 2019年（令和元年産） → 70名の生産者が参加、740トンを収穫。
カナダへの販路を拡大
- ・ 2020年（令和2年産） → 76名の生産者が参加。970トンを収穫予定。
オセアニア、東南アジアへ販路を拡大。



茨城県産米輸出協議会の概要

県内の生産者が主体となり、関係行政等と組織する協議会

[設立]平成28年

[生産者数]76生産団体

[栽培面積]約180ha

[販売金額]1.3億円（R2年産）

[出荷量]970トン

[栽培品種]ほしじるし、ハイブリッド
とうごう3号、ゆめひたち、
コシヒカリ、あきたこまち、つきあかり

茨城県内の大規模有力生産者、担い手農
家が多く参加

最高齢83歳、最年少26歳



生産者は県内全域

取扱商品



二酸化炭素充填真空包装
精米：染野GF
小売店販売価格帯
1袋6.8kg/
\$24.99～\$39.99
(\$3.7～\$5.9/kg)



通常包装
精米：埼玉樋口米穀
小売店販売価格帯
1袋5kg/
\$18.99～\$24.99
(\$3.8～\$5.0/kg)

品種

- ・とうごう3号 (F1 多収品種)
- ・ほしじるし (多収)
- ・ゆめひたち (多収)
- ・コシヒカリ
- ・あきたこまち
- ・ツキアカリ (多収)

販促活動実績

生産者と共に試食販売、商談会

述べ50人の生産者と海外渡航20回、3万人以上の方に茨城県産米を試食して頂き、740トンの供給を上回る2000トン以上の需要を生むまでに成長。

渡航した生産者の意識に大きな影響を与えることができ、輸出米の作付け面積拡大、生産意欲向上に寄与している。

引き続き生産者を巻き込んだの事業を展開して行きたい。



中長期、目標輸出数量

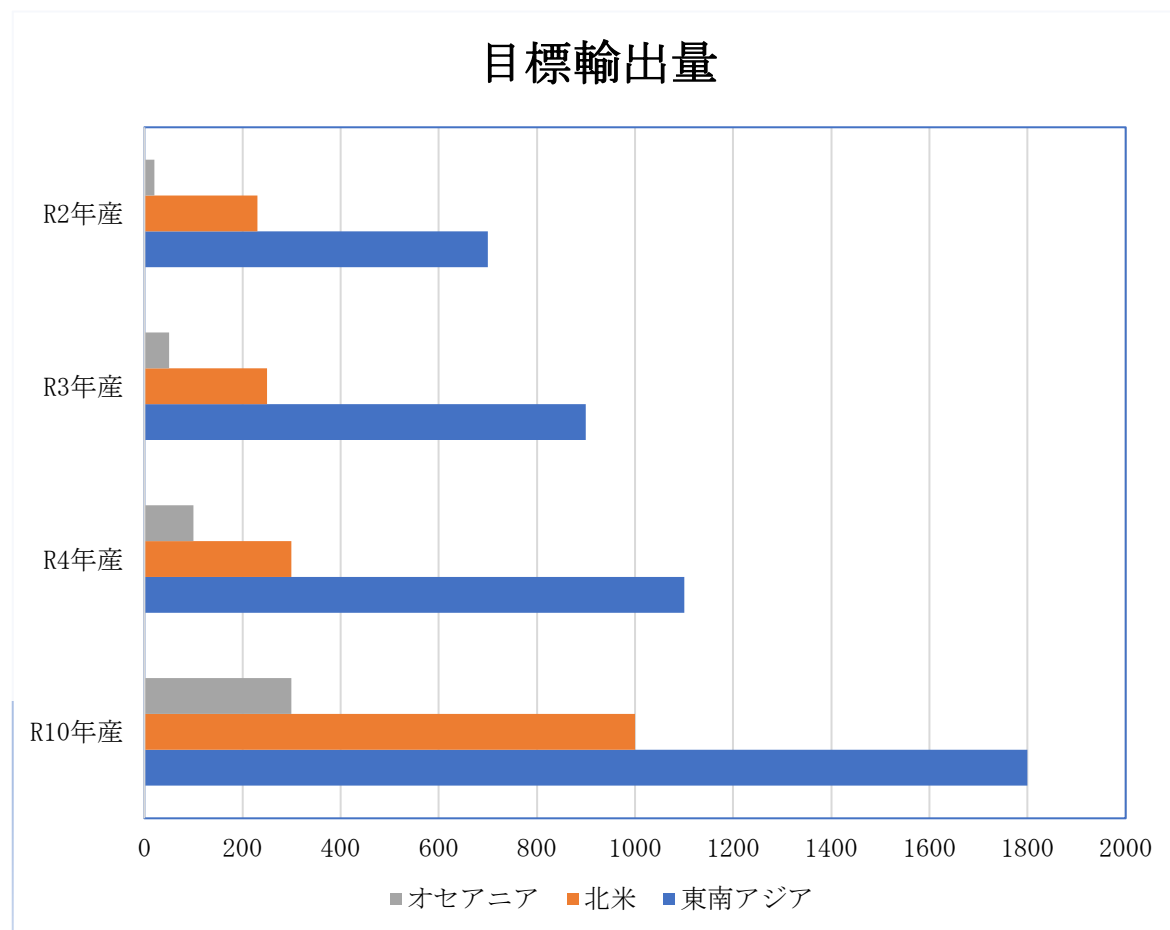
販売計画、目標数量

R2年産：940トン

R3年産：1200トン

R4年産：1500トン

R10年産：3100トン



END